



# みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)  
http://www.yokohama.jrc.or.jp/

●発行：2023年1月 医療連携センター

## Contents

- 2023年新年のご挨拶 P1
- 就任のご挨拶 P2
- 日常診療の中に隠れている内分泌疾患 P3
- 当院における無痛分娩について P3
- 変形性膝関節症に対する再生医療 P4



## 2023年新年のご挨拶 本年も宜しくお願い申し上げます

院長 伊藤 宏

明けましておめでとうございます。

日頃より、横浜市立みなと赤十字病院の医療活動に多大なるご支援とご協力を賜わり、まことにありがとうございます。当院は本年も良質な医療の提供と地域の皆さまの健康増進に貢献するため、全職員一丸となって邁進してまいりますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

昨年2022年も、当院は新型コロナウイルス感染症の対応に追われました。特に昨年8月から9月にかけて起こった第7波では、新型コロナ患者の爆発的増加に加え、職員の感染者の多発やクラスタの発生などにより、一時は一般診療を制限せざるを得ない事態となりました。地域の皆さまにご迷惑をお掛けしましたことを、こころよりお詫び申し上げます。

しかしながらコロナ禍が始まって3年近くが経った現在、我々はワクチンや治療薬など多種多様な武器を手に入れています。我々病院もこの間に数多くの経験を積んで、コロナ対応のノウハウを獲得しました。たとえ今までのような規模のパンデミックが起こったとしても、なんとか通常医療の提供体制を維持出来るような、柔軟な体制が整っていると自負しています。

当院は市民のための市立病院として、さらに、人道博愛の赤十字精神に基づいて医療活動を行う赤十字病院として、皆さまに高度な医療を提供す

ることを使命として、活動を行って参りました。今後、世の中も医療を取り巻く状況は、コロナ前とは大きく異なったものとなると思います。しかしながら、当院が地域の皆さまのために地域の病院としての使命を全うしていく決意はまったく変わりません。

当院の活動の中で、地域医療連携は大きな柱のひとつです。今後も医療連携センターが窓口となって、患者さんおよび地域の先生方と当院の各診療科との間を橋渡しすることにより、当院が提供する高度で良質な医療をスムーズに地域の皆さまにお届けしていきます。

当院が無事に新年を迎えられたのも、登録医の先生方をはじめ多くの皆さまのご支援とご協力の賜です。どうか本年も宜しくお願い申し上げます。



## 副院長就任のご挨拶

### 副院長 山本 晃



2022年10月より副院長を拝命いたしました山本 晃(こう)と申します。私は磯子区で生まれ、地元で育ちました。1986年に東京医科歯科大学を卒業し、初期研修は根岸にあった横浜赤十字病院で行いました。専門は血液内科で化学療法、幹細胞移植を行い、その後2005年の当院の開院直前に赴任し、院内の運用ルールを決めたりして当院を立ち上げてきました。開院後は血液内科の臨床に加えて、感染対策、化学療法センター、がんセンター、緩和医療、電子カルテ、

購買、経営企画、DPCなど多彩な業務に携わっています。病院機能向上のために、病院機能評価のサーベイヤーも行っていきます。

日本の医療は、新型コロナの先行きが見えない中、地域医療構想、医師の働き方改革、医療・介護制度の改革など、複雑にからみあった問題を抱えています。これらを解決していくためには、病診連携、病病連携がポイントとなります。当院は地域の急性期病院として、地域医療機関との連携をますます強化し、愛着のある地域の医療を発展させていきたいと思っております。今後とも、みなと赤十字病院をよろしくお願い致します。

## 医療連携副センター長就任のご挨拶

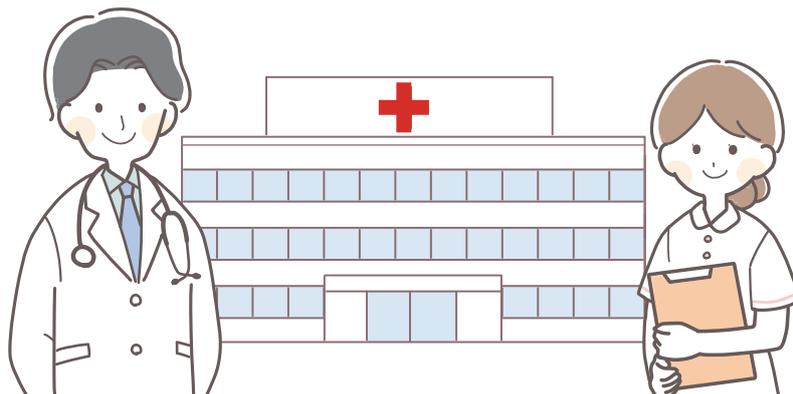
### 医療連携副センター長 兼 耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長 田口 享秀



2022年9月より医療連携センターの副センター長に就任いたしました、耳鼻咽喉科・頭頸部外科部長の田口 享秀(たぐち たかひで)と申します。当院の横浜市の中核病院としての役割、また赤十字病院として広く地域の健康に貢献できる医療体制の整備に協力していきたいと思っております。近年益々複雑化する医療環境の中、当院および地域で医療を担当される各

診療科の先生方や医療従事者の方々、そして地域の人々にとっての架け橋となるよう、適切で継続可能な繋がり・連携となるよう尽力できればと思っております。

皆様のご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。



## 日常診療の中に隠れている内分泌疾患

### 内分泌内科部長 太田 一樹



前回2017年に「みなとからの風」で当院の糖尿病診療について御紹介しましたので、今回は内分泌疾患について書かせて頂きます。糖尿病は、血糖、HbA1cが健診項目に含まれていることより、検査さえしていれば見逃されることはまずありません。一方、内分泌疾患は、その存在に注意を払っていないと診断されないままになることがあります。その筆頭は原発性アルドステロン症です。高血圧症全体の5~10%を占め患者数は少なくありません。原発性アルドステロン症は本態性高血圧に比べ心房細動5.3倍、虚血性心疾患4.8倍、脳卒中2.9倍の発症率といわれており、診断して適切な治療が必要です。昨年アルドステロン測定法がRIAからCLEIAへ変更となって値は小さくなり、診断基準も変更になりました。新しいスクリーニング基準は、CLEIA法によるアルドステロン/レニン活性比 $\geq 200$  (100~200は暫定陽性)、かつアルドステロン $\geq 60$ とな

り、暫定陽性以上で機能確認検査を行っています。甲状腺機能低下症は高コレステロール血症が発端で、クッシング症候群は白血球増多や低カリウム血症が発端で見つかることもあります。当院では関連各科と連携し、すべての内分泌疾患に対応しております。原発性アルドステロン症に対する副腎静脈サンプリング、バセドウ病のアイソトープ治療、甲状腺腫瘍に対するエコー下細胞診なども行っています。内分泌疾患が疑われる症例がございましたら御紹介下さい。今後ともよろしくお願い致します。



糖尿病・内分泌内科メンバー

## 当院における無痛分娩について

### 産婦人科部長 高橋 慎治



わが国では分娩数の減少が著しく、神奈川県や横浜市、そして当院においてもその傾向は顕著です。また分娩に対する考え方にも変化があり、世界的にはスタンダードである無痛分娩を希望する方が増えています。わが国で2014年には4.6%であった無痛分娩率が、2020年には8.6%まで増えています。当院でも2021年における無痛分娩率は23.65%と増えています。ただ医療安全の面から希望なさる方全員には行えておらず、2021年は希望なさった方の80%程度に無痛分娩を施行しました。

分娩に伴う陣痛(子宮収縮)や骨盤の広がる痛みは、脊髄を通して脳に伝えられます。無痛分娩(和痛分娩)とは、脊髄の近くに麻酔薬を少量ずつ注入することで分娩の痛みを和らげる方法です。当院では脊髄クモ膜下硬膜外併用麻酔で行っています。無痛分娩を開始すると痛みは和らぎ、赤ちゃんの下降感や子宮収縮をある程度感じ、子宮口が全開大になったらゆっくりいきみながら出

産します。麻酔による赤ちゃんへの影響はほぼありません。痛みの程度は妊婦さんそれぞれで異なるので、完全に無痛になる方もいれば、ある程度痛みを感じる方もいます。

当院産婦人科はがん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センターとして、良性疾患の内視鏡下手術、悪性腫瘍手術、胎児超音波診断等に力を入れており、地域に貢献する医療をこれからも行ってまいります。



脊髄クモ膜下硬膜外併用麻酔

当院における無痛分娩の推移

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
分娩数	783	573	764	681	523	537
無痛分娩数	107	45	59	74	77	127
無痛分娩率	13.67%	7.85%	7.72%	10.87%	14.72%	23.65%



# 変形性膝関節症に対する再生医療を行います

整形関節外科部長 浅野 浩司



変形性膝関節症の治療はリハビリや関節注射や投薬などが第一選択となります。これらが有効ではない場合には手術を行うことがあり、日本では年間約10万人に対して変形性膝関節症の手術が行われています。当院でも変形性膝関節症に対する手術としては脛骨骨切り術や人工関節置換術を施行しています。これらの手術の術後成績は良好ですが、社会的または身体的なことから手術を希望されない患者さんもおられます。近年では膝の再生医療として血小板を遠心分離機で濃縮して、そこに含まれる成長因子などを用いる PRP(多血小板血漿) 療法が広く行

われています。当院でも 2022年4月から PRP療法を改良した PFC-FD療法を開始しました。PFC-FDは成長因子などを高濃度に含んでおり、より高い効果を期待しています。具体的には血液を約50ml採取して、専門の施設で加工を行い 3週間後に膝関節に注射を行います。問題点としては保険適応ではないため自費診療となること(当院では総費用165,000円)、変形が強い患者さんでは効果が弱くなることがあります。また、PFC-FDは腱の炎症にも有効であり難治性のテニス肘などにも施行しています。当院にご紹介いただければ様々な治療の選択肢を示させていただきますのでよろしくお願い致します。



紹介患者さんのお問い合わせ・ご予約は医療連携課で承ります

電話 045-628-6365(直通) / FAX 045-628-6367(直通FAX) 受付時間 平日 8:30~17:00



日本赤十字社

横浜市立みなと赤十字病院

〒231-8682 横浜市中区新山下3丁目12番1号  
TEL:045-628-6100(代表) FAX:045-628-6101



<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

みなと赤十字

検索

病院ホームページ